

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名

シーサイドリビング沙美

日付 平成 21年 3月 23日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

平成17年に沙美海岸の地にこのグループホームが開設されて以来4年目を迎えて、施設長と2人の管理者のチームワークよく運営に当たってきたと思われる。それは、職員が安定してきたことである。この1年は職員の退職はなく、管理者と計画作成担当者も実質変更なしで今日に至っている。職員の研修にも力を入れ、資格取得も奨励しており、ケアとサービスの質の向上に努力している。

経営理念は、ご家族にご安心いただける施設、ご利用者に喜んでいただける施設、地域に有用な施設、この3つの理念を実現するためのスローガンを当初「平穏無事」としていたのを、最近では「温和丁寧」と変えている。この2つの4文字スローガンからも、これからは、穏やかで一つ一つ丁寧という落ち着きを持って着実に向上していこうとする気持ちを想像することができる。

2つのユニットがあり、それぞれのユニットでは利用者の状態は異なるので、2人の管理者の思いもそれを象徴している。1階は重症の利用者が多いので、「利用者の身体的レベルが下がってきた。それによって雰囲気も変わってきた。職員が慌てることなく、ゆっくりした時間の流れの中で、落ち着いた生活を保ちたい」と管理者が語ってくれた。一方、2階は比較的安定した利用者の状態の中で「現在のこのユニットの雰囲気を大切に、楽しい感じを保ちたい。バタバタせず、落ち着いた職員でありたい」とこの管理者は言う。2人の管理者は、利用者の状態を見れば全く違う事を言っているように見えるが、職員は「ゆったりと落ち着いた気持ちで、楽しい思いで利用者の支援にあたりたい」という気持ちは共通している。「職員が楽しく笑顔で利用者と接していないと、利用者が楽しい生活ができる筈がない」と施設長も言っている。職員にホームの良さを尋ねると「賑やかで楽しい」「職員も一緒に楽しんでいる」という声が返ってきた。人間関係の良さが職員間はもちろん、利用者との関係にも広がっていて、家族のようなごく自然で肩のこらない関係ができていることが確認できた。

もう一つは、運営推進会議の開催を通して地域との交流が活発となり、この地域に根付きつつあることを実感した。グループホームと同一建物の中にデイサービス事業所があるが、このデイサービスと地域のつながりがホームにも波及して、ボランティアの人がホームにも手を差し伸ばしてくれている。又、運営推進会議の委員の紹介で保育園や小学校との交流、地域の中でのホームの存在感の広がりがどんどん進んでいることも頼もしい。

特に改善の余地があると思われる点

介護計画作成のプロセスはよく検討されており、記録類も簡単明瞭にして分かり易くなっていて良いと思うが、更に介護計画と記録類が、グループホームのケアとサービス提供の業務の中にしつかりと浸透して、職員の業務の柱となるようにするためにもう一步改良をしてもらえたらと思う。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：理念は開設当初から設定されており、ホームの運営状況に応じたスローガンも変えて職員間で共有できているので問題はない。</p> <p>2. 全体的に見て…：ホームの運営も落ち着いてきたことから「温和丁寧」と一歩前進させた。このスローガンはホームの運営会議で職員が案を持ち寄り決めたそうだ。利用者一人ひとりに対して、「本人と家族がこのホームに来てもらって喜んでもらえる」と言ってくれるよう、ケアとサービス提供を積み重ねていくことであり、職員が仲良く、笑顔で仕事ができるよう心掛けている。そのために、職員の行動指針も定めてあり、職員の5感を育てていこうと開設以来、この気持は変わっていない。「目・耳・口・心・姿勢」について具体的に説明し、職員は常に反復復唱して認識を深めている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：建物は代表の思いが十分に組み込まれて建設されているので、改善することはない。</p> <p>2. 全体的に見て…：建物空間機能としては、地域に水害等の災害があった時、地域の人の一時避難場所になり得るスペースを作った。居室沿いの廊下は幅広いスペースも設けた。このスペースは利用者の生活にも役立っている。次に利用者の生活機能として、無垢の木材をふんだんに使い、木材の性質と人に対する吸放湿機能と防カビ、防虫等の機能を融合させている。リビングルームの床と壁には無垢の木材を使って、自然な木目や生き櫛が人の視覚への調和、心地良さを無意識に感じてもらえる。居室の壁は無垢の桐のブロック材張りとして、吸湿、吸音、防カビ等の機能を惜しみなく発揮している。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：ケアマネジメントについて特に改善するところはないが、個別の記録から介護計画に結び付けられる様式又は方法を改良していきたいという意欲がある。ケアの中から、利用者一人ひとりに対し「本人と家族がシーサイドリビング沙美に来て喜んでもらえる」と実感してもらいたいと考えている。</p> <p>2. 全体的に見て…：利用者は落ち着いた態度でよくお喋りをしている雰囲気漂っている。利用者本人からも家族からも信頼を得ている。これは次の事例でもよくわかる。利用者の転倒した時に、職員と家族のやり取りを記録から見る。転倒時の様子をお知らせしてお詫びする「いつもすみません。十分です」と返事をいただく。次の転倒時の報告とお詫びに対し「元気ですか？ だいじょうぶ。十分です」と言って下さる。誠意を持って職員が説明したことが想像できる。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：地域との交流も、運営推進会議を通して着実に活発化しているので、改善するところはない。</p> <p>2. 全体的に見て…：利用者は、自分の好きなこと、得意なことをしながらゆったりと過ごしている。デイサービスも運営しており、そこに来ているボランティアの先生もホームにも出向いてくれ、毎月フラワーアレンジメントをしたり、陶芸をする。粘土で食器作りをしたり、ポーセラーツ(うつし絵)をして楽しんでいる。又、チェアビスクス(椅子に座ったままの体操)をデイサービスの利用者と一緒にしている。地域の人と共にこのホームでの生活が成り立っている。</p> <p>地域の連携や共存を発揮して、利用者も一緒に近くの沙美海岸の砂浜の掃除にも行き、クリーンアップ活動に参加している。</p>		